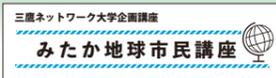


会員団体との協働で 対面 & オンラインの多彩な講座を開催

みたか地球市民講座



「みたか地球市民講座」とは、(1)「不安な時代」を生き抜くための学び、(2) 地域から世界を考える、(3) 地域の「大学」としての新たな取り組みを行う講座です。8講座を開催しました。正会員からはそのうち2講座にご協力いただきました。

「アフリカの人々の日常と私たち—宗教と食をめぐって」(全5回)

武内 進一(東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター教授)ほか
宗教と食という2つのテーマから、アフリカの人々の日常、そして私たちとのつながりを考えました。

「自然を活かした地域創生とSDGs」(全5回)

岩浅 有記(大正大学 地域構想研究所 准教授)
これまでの自然環境政策や国土政策を振り返りつつ、グリーンインフラやSDGsとの関連性について学び、人と自然の共生する社会のあり方について考えました。

東京学芸大学 連携企画講座



子ども支援学講座(基礎編)

2021年度は、子ども支援学講座の基礎編として、子どもと関わるための基本的な内容の5講義をオンラインで実施しました。受講者は、子どもの支援に関わっている方、これから関わろうと考えている方などで、40歳代以上の方が多数でした。各講義において大変熱心に受講され、しっかりと知識を身につけ、考察されていました。本講座では、東京学芸大学との連携により「こどもパートナー」認証〔(一社)教育支援人材認証協会〕を任意で申請することができます。2021年度修了者は13名申請しました。

専門学校アジア・アフリカ語学院 寄付講座

語学体験講座

アジア・アフリカ地域の言葉の魅力を知る機会として、春と秋に語学体験講座を開講しました。同学院からアラビア語、インドネシア語、ウルドゥー語、韓国語、タイ語、中国語、ヒンディー語、ロシア語の講師をお招きしました。各国・地域のことに触れながら、話したり書いたりすることに挑戦する語学入門クラスを主とし、中・上級に挑戦するクラスも開講しました。

ルーテル学院大学大学院 サテライトキャンパス講座



高齢者福祉研究

ルーテル学院大学大学院の正規講義をサテライトキャンパスとして開催している講座です。疾病や認知症等、高齢者を取り巻く生活課題に加え、コロナ禍における質の高い高齢者ケアのあり方などについて、ソーシャルワークの知識、方法を学びつつ現場に適用するなど、社会福祉関係従事者として実践の水準の向上を図りました。



国際基督教大学 寄付講座

「数学のタベ」

数学は新たな視点を加えながら現在も発展を続けており、特に近代以降の数学から数多くの興味深いトピックが生まれました。そのトピックの中から一つ選んで、数学の視点や発展の様子などを紹介しています。2021年度は「モジュラー形式と楕円曲線」、「バナッハ・タルスキーのパラドックスを見る」などをテーマに3回実施しました。



東京女子大学 寄付講座

「数学はこんなに面白い！」 「数学カフェみたか」



小林一章名誉教授による講座で、「数学はこんなに面白い！」は2010年に、「数学カフェ」は2014年に開始し、いずれもおおむね毎月開講しています。数学に関心のあるシニア層のリピーターが多く、毎回キャンセル待ちが出るほどの人気講座です。

東京女子大学 企画講座



確率と期待値

宮地晶彦名誉教授を講師に迎え、オンラインで開催しました。分数の計算以外に特別な予備知識は必要なく、確率に関するパラドックスの話題などを題材としながら、実生活で確率を利用するときの考え方についてご講演いただきました。

電気通信大学 企画講座



脳と心の情報科学

天文・科学情報スペースでの企画展示「脳の不思議展—光と脳科学の最前線」と連動し、電気通信大学企画講座として開催しました。目、耳などで得た情報は電気信号として脳に送られ、認識されますが、目の前の存在と、実際に物理的に存在している世界は、必ずしも一致するとは限りません。錯覚現象を紹介しつつ、脳が作り出している像を最新の研究を交え紹介しました。

国立天文台 企画講座



「アストロノミー・パブ」

国立天文台の企画によるアストロノミー・パブは、市民と専門家との間の相互コミュニケーションを目的とした、サイエンス・カフェの天文版です。コロナ禍により、オンラインで開催してきましたが、2022年1月には約2年ぶりに対面で開催しました。2022年度で18年目を迎える長寿講座です。

学生による ミタカ・ミライ研究アワード2021



学生たちが授業やゼミ活動、その他課外活動などで自ら取り組んだ、未来の地域社会やまちづくりに関する研究や実践活動の成果を提案発表する機会を創出する場です。2021年度は6チームからの応募があり、厳正なる審査の結果、優秀賞(3グループ)・市長賞(うち2グループ)が決定しました。

三鷹ネットワーク大学開設15周年記念事業を契機に開始した「学生によるミタカ・ミライ研究アワード」は、まちづくり総合研究所事業として2022年度も開催します。詳細は、三鷹ネットワーク大学のWEBサイトをご覧ください。会員大学学生の皆様からのご応募をお待ちしています。



2021・2022年度 三鷹まちづくり総合研究所「まちづくり研究員」

まちづくり研究員事業は、公募により市民等を研究員に委嘱し、調査研究や論文作成を支援することによって、三鷹市のまちづくりの議論と実践をより豊かにしていくことを目指しています。

2年目となる2021年度には19件、合計27人の方にまちづくり研究員を委嘱しました。3月には研究の成果として13篇の論文が提出されました。研究テーマは、シビック・プライド、生涯学習、まちおこし、都市農業、福祉、市民参加、政策分析など多岐にわたりました。これらの論文を収めた論文集第2巻は秋ごろ発行予定です。

2022年度のまちづくり研究員にも多数のご応募をいただきました。引き続き研究員とともに、三鷹市のまちづくりのために地域の課題解決や価値創造に挑んでいきます。



2021年度 「民学産公」協働研究事業

2021年度から「まちづくり研究員」支援枠を新設しました。正会員・賛助会員の大学・企業・団体等の5団体にまちづくり研究員の3名を加え、計8件の協働研究事業(実証実験)に取り組みました。3月4日(金)に成果報告会を实地開催し、その様子を三鷹ネットワーク大学のWEBサイトで動画配信(YouTube)しました。

(1) 中嶋 厚樹(まちづくり研究員)	「アート・コミュニケーション事業の社会的意義についての一考察—対話型鑑賞ワークショップの実践を通じて—」
(2) 境交通株式会社	「車内感染対策の効果想定 & 『まいど(MAIDO)』プロジェクトII」
(3) 株式会社ヌールエ デザイン総合研究所	「動物たちが語るSDGs『三鷹!動物かんきょう会議』(三鷹モデル)の開発と三鷹市での再現実証の研究」
(4) アークプランニング株式会社	「三鷹市における在宅シニアケアを中心としたスマート・コミュニティ・プラットフォーム構築に向けた研究」
(5) 法政大学地域研究センター	「TAKA-1からTOKYO-1への実証研究」
(6) 東京学芸大学	「学校を核としたコミュニティ形成と防災教育の学習プログラムの開発に関する研究」
(7) 林 賢(まちづくり研究員)	「新様式のアートコミュニケーション活動を市民活動のまちづくりコミュニケーションに役立つワークショップやツールに仕上げていく研究事業〜緑豊かな『子どもの森』市民(案)づくりでテスト利用する〜」
(8) ルモアン 直美(まちづくり研究員)	「『みたか100年の森』の基盤やプラットフォームの形成」

海上技術安全研究所 寄付講座



船の運航、今昔そして未来【教室・オンライン同時開催】

海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所による寄付講座「船と海の科学」を2年ぶりに開催しました。この講座では、研究にまつわるトピックスを取り上げ、「船と海の科学」を分かりやすく解説しています。今回のテーマは「船の運航、今昔そして未来」。講師の加納 敏幸さん(同研究所職員)に大航海時代から最新の技術まで盛りだくさんでお話いただきました。

杏林大学 公開講演会



「コロナ禍でも負けない体をつくろう！」ほか

杏林大学の特色を活かして、医療系、人文社会科学系の公開講演会・公開講座を8回開催しました。医療系では、「コロナ禍でも負けない体をつくろう!」、人文社会科学系では「バイデン政権のインド太平洋政策」など、時事を踏まえた講座を、コロナ禍でも安心してご参加いただけるよう、オンラインで実施しました。

東京都産業技術大学院大学 寄付講座



認知症：ならないためにできること

2021年度の東京都産業技術大学院大学講座は「認知症」に関する内容で、オンラインで実施しました。佐藤正之特任教授を講師に迎え、認知症の現状に始まり、アルツハイマー病の根本治療薬の抱える課題、さらにはそれを解決するための新たな認知機能検査について、最新の知見をお話いただきました。